

特集

Vol.8
2023年3月

伊豆の国市郷土資料館

資料館だより

目次

- 特集 … (1~3)
- R4年度企画展
- イベント報告 … (4)
- インフォメーション … (4)



かわらけ 史跡北条氏邸跡（円成寺跡）出土



中国産陶磁器 青磁・白磁の破片
史跡北条氏邸跡（円成寺跡）出土



史跡北条氏邸跡（円成寺跡）の掘立柱建物の柱跡



仏具 史跡北条氏邸跡（円成寺跡）出土

義時以降の北条氏と伊豆国

史跡北条氏邸跡（円成寺跡）

北条氏が拠点とした館である北条氏邸跡と、北条氏滅亡後に一族の鎮魂のために建てられた円成寺跡の複合遺跡です。狩野川と下田街道に面した守山のふもとに位置しています。



小天目茶碗 史跡北条氏邸跡（円成寺跡）出土

鎌倉幕府の執権を務めた北条氏は、元々伊豆菰山に館を構えた豪族で、伊豆に流罪になっていた源頼朝を支えました。石橋山の戦いを経て安房国（現在の千葉県南部）に移動した頼朝が鎌倉入りするとともに、北条氏一門も鎌倉に拠点を移します。が、鎌倉に拠点を移した後の伊豆と北条氏の関係はどのようなものだったのでしょうか。

執権北条氏と伊豆菰山

現在の伊豆の国市寺家から四日町の地名に「上北條」「中北條」「下北條」「中條」「南條」というものがあります。北条氏はこの周辺に館を建てて暮らしていました。これが、現在の史跡北条氏邸跡（円成寺跡）です。

発掘調査の結果、掘立柱建物十五棟や井戸などの遺構をはじめとし、かわらけや陶磁器、箸、鉄鍋、また高級品であった中国産陶磁器が大量に出土しています。これらは、この場所に財力を持った人物が居住していたことを示しています。

拠点を鎌倉の館に移してからも、北条氏はたびたび伊豆に戻ることがありました。

特に時政は頻繁に伊豆で活動しており、石橋山の戦いで戦死した長男宗時の供養、願成就院建設の視察、病気の療養など、様々な名目で伊豆を訪れていたことがわかっています。

義時や政子も例外ではなく、義時は三嶋大社の参拝や願成就院の修理監督などで、政子は二所詣（伊豆山神社と箱根神社と三嶋大社を参拝すること）

また、嘉禎二年（一二三六年）には泰時が父義時の十三回忌のため願成就院に塔婆を建てて仏像を造り、盛大に法要を行ったことが『吾妻鏡』に記載されています。

仁治三年（一二四二年）に泰時が死去します。伊豆の北条氏館はこの頃まで主に使用されていたと考えられています。その後、十三世紀後半頃に伊豆の北条氏館の規模が縮小していったようです。しかし、その後も完全に館が無くなったわけではなく、北条氏の本貫の地として館の機能を持っていたと考えられます。

鎌倉幕府の滅亡と鎮魂の寺

泰時が死去してからおよそ九十年後の元弘三年（一二三三年）、鎌倉幕府は足利尊氏や新田義貞らによって攻め滅ぼされます。幕府方の指揮を執っていた第十四代執権北条高時は鎌倉の東勝寺で一族と共に自害します。

その後、高時の母である覚海円成という尼僧が館があった場所に寺院を建てて一族の供養を行いました。この寺が円成寺です。覚海円成は安達泰宗の娘で、第十三代執権貞時の妻であり第十四代執権高時とその弟泰家の母でした。時代は後醍醐天皇の在位中、足利尊氏が京で室町幕府を開き、鎌倉には鎌倉公方が置かれていた頃です。

円成寺は後醍醐天皇や足利直義（尊氏の弟）によって所領が安堵され、北条氏の女性たちは円成寺で暮すこととなります。また、江川文庫や北條

と）で伊豆を訪れています。

願成就院は北条氏館から守山を挟んで近い場所に建立された、北条氏の氏寺です。運慶作の国宝仏五体が現在も安置されています。当時は浄土式庭園と複数の建造物を有する大寺院でした。北条氏にとって伊豆、特に北条氏館の周辺は重要な位置づけであったことがうかがえます。

その後、時政は牧氏の変（時政と妻の牧の方が共謀し、第三代將軍源実朝を暗殺して平賀朝雅を將軍にしようとした事件）によって幕政から追放され、伊豆で約十年間の隠居生活を送り、建保三年（一二一五年）に七十八歳で死去します。ちなみに時政の妻だった牧の方は京に戻り、安貞元年（一二二七年）に亡き夫時政のために十三回忌法要を行い、寺を建立しています。

義時の死後

幕府側の勝利に終わった承久の乱から三年後の貞応三年（一二二四年）に義時が鎌倉で死去します。死因は脚気や霍乱と言われていますが、急死だったため暗殺説もあり、実際は不明です。

『保暦間記』には、義時臨終の報を京で聞いた泰時はすぐに鎌倉に向いますが、そのまま鎌倉に入るのではなく、一旦伊豆に逗留したと書かれています。泰時が一旦別の場所に逗留したのは、義時死後の鎌倉での動乱を警戒してのこととされています。この時の泰時の動きには諸説あるものの、北条氏の本貫地である伊豆菰山が安全であると判断したのかもしれない。

寺に残されている足利直義の寄進状には、北条五箇郷（原木、山木、肥田、中條、南中村）などの領地を円成寺に寄進すると書かれています。

覚海円成は貞和元年（一二四五年）に没します。その後円成寺は一旦衰退しますが、十四世紀終わり頃から関東管領の山内上杉氏の庇護によって再び栄えるようになります。

この頃、奈古谷に国清寺が建てられたと考えられています。国清寺は畠山国清と関東管領上杉憲顕によって隆盛を極め、一時期は関東十刹にも数えられたほどの大寺院でした。

円成寺跡は長年の発掘調査により、水晶製宝珠、香炉、灯明皿、仏具など、寺院の要素が強い出土品が見つかる一方、室町時代に流行した喫茶文化をほうふつとさせる天目茶碗や柄杓などが出土しており、栄えていたようすがうかがえます。

室町幕府との関係は比較的良いもので、寛正六年（一四六五年）には円成寺から「御器」と「海苔」が將軍義政に献上された記録が残っています。その後、円成寺はしばらく守山のみもとで寺院としての機能を保っていました。十五世紀後半頃にはだんだんと衰退していったようです。

戦国時代のはじまり

史跡北条氏邸跡（円成寺跡）の東側に史跡伝堀越御所跡があります。十五世紀の半頃に室町幕府第八代将足利義政の異母兄の政知が、当時幕府に反発していた古河公方足利成氏の追討のため関東に入ろうとしましたが、劣勢のため入ることがで

現に、義時が亡くなってからの鎌倉の情勢は落ち着かないものでした。義時が亡くなって一カ月も経たないうちに義時の後妻の伊賀の方が、泰時を差し置いて実子の政村を執権にしようとする画策します（伊賀氏の変）。しかし、その企ては政子の説得に応じた三浦義村の内通で未然に発覚し、義時の死から一ヶ月半後、伊賀の方は伊豆に流されます。伊豆のどこに流されたかはわかりませんが、伊賀の方はその後伊豆で死去したようです。

そんな政子も嘉禄元年（一二二五年）に鎌倉で死去します。現在、願成就院に安置されている地藏菩薩坐像は「政子地藏」とも呼ばれ、政子の没後七回忌に制作されたものと伝わりま



守山周辺図

まず、伊豆に構えた御所がこの堀越御所です。江戸時代後期に秋山富南によって編纂された『豆州志稿』に、守山の北の御所之内と呼ばれる場所に堀越御所があったと記していることと、発掘調査の結果を受けて御所跡であると認識され、国指定史跡になりました。

政知の死後、足利茶々丸が後を継ぎますが、明応二年（一四九三年）に伊勢宗瑞（北条早雲）に攻められてしまいます。

ここから伊豆は、のちに小田原城を拠点に関東一円を支配した小田原北条氏が治める時代に入っていきます。

ひとことメモ

義時や時政をはじめとする平安く鎌倉時代の北条氏と、小田原を拠点にした戦国時代の北条氏は、苗字が同じですが血縁関係はありません。

区別するための通称として鎌倉時代の方は「前北条」「鎌倉北条」など、戦国時代の方は「後北条」「小田原北条」などと呼ばれることがあります。

なお、戦国時代の北条氏は二代目の氏綱が苗字を伊勢から北条に変えているため、伊勢宗瑞（北条早雲）は生前、北条氏を名乗ることはありませんでした。

令和4年度下半期 企画展・イベント

企画展『山木遺跡の発掘調査をたどる』
令和四年十月二十九日～十二月十八日



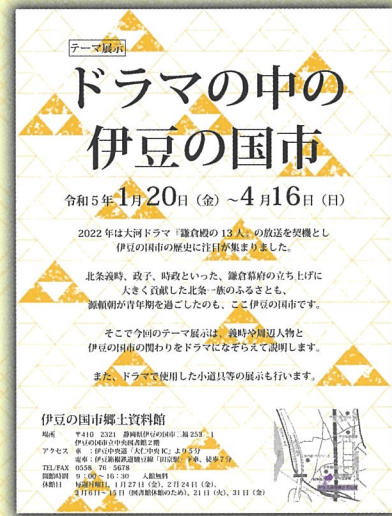
瓦のレプリカを作り
ました！

ワークショップ「瓦のレプリカを作ろう！」では、願成就院から出土した瓦で取った型を用いてレプリカを作りました。原型は約八〇〇年前に使われた本物の軒丸瓦です。

参加者はシリコン型に慎重に石膏を流し込み、乾いた後は本物の瓦を見ながら思い思いの色で塗って仕上げていました。



テーマ展示『ドラマの中の伊豆の国市』
令和五年一月二十日～四月十六日



小学生が郷土資料館
を見学に訪れました

二～三月にかけて、市内・近隣市町の小学三年生が、郷土資料館と民具の見学に訪れました。生徒の皆さんは黒曜石や土器を実際に触れてみたり、藁草履や背負子を身につけてみたり、火鉢や鉄びんに触れてみたり、本物を使って体験しました。



施設案内

インフォメーション

開館時間 午前九時～午後四時三〇分
休館日 月曜日 毎月最後の金曜日
年末年始(十二月二十八日～一月三日)
六月最終週の館内整理期間
(図書館休館日に準じる)

料金 無料

所在地 静岡県伊豆の国市三福二五三-1
(伊豆の国市立中央図書館二階)

電話 〇五五八・七六・五六七八(FAX同じ)

周辺地図



伊豆の国市郷土資料館 資料館だより vol.18
編集発行・伊豆の国市郷土資料館 令和五年三月三十日
印刷・いさぶや印刷工業株式会社